



transforming lives
and communities

global

OM日本ニュース 第83号 2020年 冬



大プロジェクトの一員として

2017年、日本人として初めて家族でロゴスホープに乗船した船越ファミリーの二年間の奉仕の報告です

2017年9月ドミニカ共和国で乗船。2年間で、カリブ諸国、中央アメリカ、南米にある18カ国・32の港を巡り宣教。2019年9月ブラジル・サントスで下船。主は無学な普通の私たち家族を選び（使徒4：13）、神の国を広げる大プロジェクトの一員として用いてくださいました。ハレルヤ！

①福音は救いをもたらす神の力

主は私たちを恵みによって救い、また恵みによって福音を伝えるものに変えてくださいました。日本の裏側にある国々を訪れて感動したことは、「ここでも同じ主が礼拝されている」こと。イエスさまの十字架と復活によって新しくされたクリスチャンが、違う言葉や文化で同じ主を礼拝している姿を見ることほど嬉しいことはありませんでした。初めて出会ったのに長い友であるかのように過ごし、ともに主を礼拝しました。私たちは天国での再会を約束し別れました。希望は天にあります！！人を変えるのは人間の知恵や方法ではありません。福音に力があり、福音だけが私たちの人生を変えることができます。

内面P2に続く

» ロゴス・ホープ号報告



P1-3

» ミャンマーツアー報告



P4

» ロシア短期宣教応募、他



P5



ブラジルのサルバドル市の港にて停泊中のロゴスホープ

f @logoshope

P1より続き

②福音を全世界へ

ロゴスホープ号で世界の現実を知りました。世界には『イエス・キリスト』の名前すら聞いたことのない人々が30億人いる。主の願い、主の痛みを知りました。主の思いを私の思いにさせてください、と願いました。あまりにも多くの人達がイエス・キリストを知らない。「30億」と言う莫大な数字を考えると、私一人で何ができるだろうか。しかし、問うべきことは「私は誰か？」ではなく、「私といっしょにおられるのは誰か？」でした。主が私たちを選び、全世界へ福音を届けるために召してくださいました。

③訓練船

ロゴスホープ号には65カ国から400名が乗船しています。高校を卒業したばかりの若者から70歳を目前にした人たちも乗船しています。ともに汗を流して働き、祈りと情熱と涙を持って宣教します。ロゴスホープ号は訓練船です。船に乗っている以上、逃げることはできません。ある人はロゴスホープ号のことを、「圧力鍋」「紙やすり」と呼んでいます。この場所で毎日碎かれる訓練を受けるからです。訓練を受けた私たちが福音宣教のため全世界へ遣わされて行きます。

【今後について】

ロゴスホープ号を下船し、主は私達家族をOM日本で働きをするように導かれました。日本各地の教会を訪問し、ロゴスホープ号の証を通して主がどれほど偉大なお方かを証し教会の祝福になりたい、特に若い世代へ世界宣教の素晴らしさを伝えたいと願っています。また国内国外、教会のない地域で行われている福音宣教に携わりたいと願っています。

全国に伺います

ロゴスホープ号からの涙と笑いの証、そして参加するための詳細を聞こう。みなさんの教会にお招きください！下記までご連絡を。
携帯：080-4485-4942
メール：shinya.funakoshi@om.org



左：ソーラン節 上：セントルシアーにて
右：メキシコの教会にて



1



2



3



5



4

- 1) コロンビア・カルタヘナにて。貧しい地域の教会で出会った素敵な子どもたちと
- 2) カリブ海・セントヴィンセントで出会った素敵な家族。
- 3) コロンビアの老人ホームでの老眼鏡を配布するミニストーリー。度数を合わせるために簡単なテストをしています
- 4) メキシコのピラミッドの前にて
- 5) 2年目のドライドッグ中にモビーライゼーションチームとして行ったドイツにて

私もそのうちの1人だと

2017年から二年間ロゴス・ホープに乗船した一重美謝子さんの報告です

皆さま、こんにちは！2017年の9月から2年間ロゴスホープ号に乗船していた、一重美謝子です。はじめに、乗船期間を通して与えられた多くの恵みのうち2つを分かち合わせていただきます。

まず1つ目は、寄港先々でたくさんの出会いが与えられたことです。私は、カリブ海のドミニカ共和国から乗船しました。7つのカリブ海の島を周ったあと、コロンビアから中南米の国々を周りました。私は、乗船していた2年間、ブックフェア（船上書店）の部署で働いていたので、毎日のように地元の方々と関わる機会がありました。たくさんのクリスチャンとの出会い、逆にキリスト教に疑問を抱いて、キリスト教から離れていった人との出会い、家族問題を抱えている若者たちとの出会い…。様々な環境の中で生きている人々に出会い、その都度、自分の生き方について考えさせられました。

2つ目の恵みは、私が神様のうちにどのような存在であるかを見出せたことです。これは、神様の働き無しにはあり得ないことで、素直ではない私に対して、神様が忍耐強く働いてくださっていたことを本当に感謝しています。乗船後、自己肯定感の低さに気づかされるのが何度もありました。聖書の話は知っていたものの、それらを自分のものとして受け入れてなく、他者と比べることで自分がどんな人間か理解しようとしていました。自分の中に“なりたい自分”がいて、その自分になろうとしていたし、自分を変えてくださるように祈りました。しかし、神様はそれらを変える代わりに、聖書箇所や周りの人々を用いて、弱さも含めた自分自身を受け入れることを教えてくださいました。また、1人1人がまったく違う人間だということを理解し、受け入れることができたとき、とっても気が楽になったし、自由になりました。

た。今は、私の全てを知っていて、導いてくださる方を知っているという事実が私を強めてくれています。

ロゴス・ホープ号乗船の経験を通して、“God doesn’t call only the equipped, but God equips the called (神様は、全て備わった者だけを呼ばれるのではない。しかし、呼ばれた者を備えられる)”を体験しました。私が乗船した時は、特別に宣教に対して情熱があったわけではありません。1番の目的は、自分の目で世界の現実を見ることでした。しかし、船の生活を通して、プレることのない希望に気づかされ、この喜びと安心感を多くの人に分かち合いたいという思いが与えられました。私が乗りたくて乗ったロゴス・ホープ号でしたが、振り返ると、これは神様の導きだったと強く感じます。以前は、宣教と聞くと、どこか他人事で、特別に思いが与えられた人だけがすることのように感じていました。しかし、この2年の経験を通して、創造主を知っている全ての人が、周りに福音を伝える責任があって、私もそのうちの1人だということに気づかされました。

今は、これからの人生で出会う人々に、乗船期間を通して私が得た多くの恵みを分かち合っていきたいと意気込んでいます。そして、神様がどのように私を導いてくださるか、とても楽しみです。

最後に、私のために祈りや様々な面でサポートしてくださった方々に心から感謝を申し上げます。

皆さまの信仰生活が益々祝福され、用いられますように！

一重 美謝子

“ 神様は、全て備わった者だけを呼ばれるのではない。しかし、呼ばれた者を備えられる ”



左：孤児院にて子供達と踊る真史さん 中：象の背中に乗る夫妻
 右：カヤ州の村の教会にて、ツアーチームの特別賛美
 下：村の女性の手伝いを体験させていただく愛さん。子供の寄宿舎で、子供達に教えた習字の作品と一緒に映る近藤夫妻

ミャンマーツアー報告

2019年8月19日～27日のミャンマーツアー
 に参加された近藤夫妻の証です



近藤 真史

私がこのツアーで最も嬉しかったことは、仏教国であり自由な宣教が許されていない国で確かにキリストを信じ、信仰を伝えている人たちとの交わりが与えられたことです。ヤンゴン郊外のモン州では、様々な事情で家庭で過ごすことができない子どもたちと共に暮らし、信仰を伝えている孤児院を訪ねました。支援だけに頼ることなく、彼らは作物を栽培し、家畜を飼っていました。ヤンゴンの都会では、クリスチアンの先生たちが教える幼稚園を訪ねました。子どもたちの多くは仏教徒の家庭から来ているとのこと！！私たちはかなり直接的な伝道を行うことができましたが、それはつまり、普段からキリストの福音が教えられているということでしょう。

ヤンゴンから夜行バスに乗りカヤ州に行ったら、新たに教会を開拓しているT牧師と教会の方々との交わりが与えられました。T牧師はヤンゴンで育ち、ヤンゴンで牧会もされていましたが、2年ほど前から田舎のカヤ州のディモッソーで教会開拓の働きをされています。都会の生活を離れて、貧しい地域での働きについておられる師との出会いは私にとってのハイライトでした。

そしてこの旅で、いくつかの奉仕もさせて頂きました。子どもプログラムを通して子どもたちと遊び、福音を伝えました。教会員の家庭を訪問し、祈らせていただきました。でも、私たちができたことは本当に小さいことで、それはこの地で忠実にキリストに仕えている長期宣教師の方のおかげでできたことでした。私たちの訪問や奉仕が、そのような働き人へ少しでも励しになればと思いました。

宣教報告の文章を読んだり、報告会に出席するだけでは分からないことが体験できました。現地の人たちとの会話、かまどで煮炊きしてくださったおばちゃんたちの笑顔、綺麗とは言えないトイレで手桶で水を汲んで流したこと、外国人たちに戸惑いながらも仲良くなってくれたこと。これらの1つ1つを経験できたことに何よりも感謝しています。

日本は恵まれた国です。経済も豊かで宣教も自由にできます。そんな国に生きているというだけで、何か責任があるように感じました。心から主に感謝します。



近藤 愛

私たちが夫婦で一緒に参加出来たこと、心から感謝します。最初は中々タイミングが合わなかったのですが、今回祈りが聞かれ、参加する道が開かれました。

私にとっては初めての発展途上国訪問。ミャンマーの国はどんな国なのか、どんなことが待っているのか。不安や楽しみ、緊張でいっぱい参加でした。

一週間ほどでしたが、一日一日が濃厚で忘れられない旅となりました。たくさんの子供たちに会い、その子供たちの笑顔を見れたこと、とても感謝でした。孤児院に行く前に聞いていたので、子どもたちはとても暗い感じなのかなと思っていましたが、そうではなく、本当にお腹から大きな声を出して笑っている姿を見て驚くと同時にホッとする自分がいました。

言葉は通じないけれど、一緒に日本の歌を歌ったり、ゲームをしたり、福音を伝えたり…と子供達と共に楽しい時間を共有できたのが嬉しかったです。

私が一番感動したのは、寄宿学校へ招かれた時でした。この子どもたちにはすでに福音が伝えられており、子供プログラムの後、God is so good という賛美を捧げました。その時子供達が賛美を歌っている姿を見て、このミャンマーにもイエスが来て下さって一人一人を愛してくださっているんだと感じました。仏教徒の国でイエス様を信じることの難しさや生活の大変さがあるなか、イエス様は良い方であると賛美を捧げている姿に感動し、私は涙が止まりませんでした。それと同時に自分自身の信仰も考えさせられました。

またこの旅を通して自分にとって大変だったこともありましたが、トイレとお水のことについて、とても不便さを覚えました。日本がどれだけ綺麗で恵まれているか強く思われました。帰国後、与えられている環境を改めて感謝するようになりました。良い経験でした。

それから、この旅で与えられたこともあります。出会ったクリスチアンの一人一人のために祈るという思いです。ミャンマーはクリスチアンの歩みをする中で信仰を持ち続ける難しさがあることを知りました。現地の宣教師のため、クリスチアンの人たちの歩みが守られるように祈り続けたいです。この宣教旅行を導いてくださった主に感謝を捧げつつ、



行こう 募集期日は全て2020年です

OM短期宣教・ロシア特集

アブハジア地域にいる、危険下にいる子供達のためのキャンプ

- 📍 ロシア 7月20日(月)～8月8日(土)
- 1 アブハジアは自治共和国であり、90年代に戦争を体験した多くの未伝道民族が住む地域です。近い将来教会が始まることを目指し、危険下の子供達や若者にキャンプを通して伝道するため、あなたが必要とされています。自分の枠から抜け出して、神様が彼らに備えられていることの一部を担いましょう！戦争の影響を受けた地域に住んでいる、危険下の子供達や若者のための、3～4日間のキャンプが3つ催されます。また、地元の信者と会い、あなたの賜物、才能、奉仕を通して彼らを力づけ、訓練します。

未伝道のトゥヴァでサマーキャンプ

- 📍 ロシア 7月19日(日)～8月3日(月)
- 1 デイキャンプを通して神様の愛を子供達、10代の若者たち、また両親に分かち合いたいと願っています。トゥヴァのクリスチャンコミュニティが、地域の子供達や家族に伝道するサポートを必要としています。自分の枠から出て、神様の素晴らしい、シベリアでのご計画に参加しましょう。トゥヴァ共和国の二つの村でデイキャンプをする予定です。それぞれのプログラムは5時間で、活動的なゲーム、聖書のお話、クラフト、歌、キャンプファイヤーを含みます。トゥヴァの未伝道地域に住む子供達のほとんどは、一人で夏を過ごします。デイキャンプが彼らにとって、夏のもっとも特別で素晴らしいイベントとなることでしょう。

未伝道のトゥヴァの若者たちのためのエクストリームハイキングキャンプ

- 📍 ロシア 7月19日(日)～8月3日(月)
- 1 シベリアのもっとも闇の深い地域であるトゥヴァ共和国の若者を知り、関係を作り、福音を伝え、彼らの信仰を強める。未信者の10代のチームとともに美しいエルガキ山脈をハイキングします。教会に通っている若者もいるかもしれませんが、信仰はまだ弱いです。自分の枠から出て、祈り、励まし、交わり、奉仕を通して彼らの人生を祝福しましょう。

未伝道のアルタイ共和国でのサマーキャンプ

- 📍 ロシア 6月22日(月)～7月5日(日) 7月20日(月)～8月2日(日)
- 1 子供達、10代の若者たち、またその親たちが福音を聞くことができるようなデイキャンプを計画しています。子供ミニストリーを発展させるために、地元の教会が私たちの助けを必要としています。自分の枠を出て、もっとも未伝道人たちの間で神がなさる素晴らしい御業を目撃しましょう。アルタイ共和国の2つの村、シェバリノとウルル＝アスパクでデイキャンプをします。それぞれプログラムは5時間で、アクティブなゲーム、聖書のお話、クラフト、歌、キャンプファイヤーを含みます。

求められる人物像：子供や若者と働くことを楽しみ、喜んで学び、未伝道者に仕えることができる人。良いチームプレイヤーであり、柔軟な人。

ロゴス・ホープ号

- 📍 世界中 1年間もしくは2年間
- 1 ロゴス・ホープ号には常時60カ国から400人以上の人が乗船し、船内にはギネスブックにも載った「世界最大の移動本屋」もあります。参加者はボランティアクルーとして乗船しながら様々な国を航海し、寄港先と船内でミニストリーをします。ロゴス・ホープ号乗船中は、毎日決められた部署での仕事をを行い、さらに様々な形式の宣教と弟子訓練に参加していきます。

事務局スタッフ募集中

- 📍 日本 1年間～
- 1 OM日本では宣教師の派遣と受入れに関する人事と会計、記事の翻訳(和英)などの働きに携わるスタッフを求めています。世界のOMに属する全員は支援者からのサポートを得て宣教師としての立場で奉仕しています。世界宣教の前線を支える事務局での働きに、ビジョンと重荷が与えられていませんか？関心のある方は事務局までぜひ一報を。

捧げよう



OMの働きを覚えてご支援下さい。

OM日本事務局支援献金

OM日本事務局の運営と宣教師の派遣業務は、献金によって行われています。事務局のスタッフは全員、ボランティアであり、家族や友人、教会からの経済的なサポートによって活動を続けています。みなさんの献金は、事務局の運営費とサポート額が十分でないスタッフの支援金として当てられます。

連絡先 & 献金送金先

特定のミニストリー、プロジェクト、宣教地、宣教師のための支援金を送って下さる方は、振込用紙の通信欄に送金内容をご明記の上、OM日本の口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。

-  www.omjapan.org/give
-  郵便振替口座 02100-0-24998
加入者名「OM 日本事務局」

Print Media Volunteer 国内奉仕者を探しています

プログラム期間:期間・期限なし

作業内容：OM奉仕者の名刺づくりや、6ヶ月毎に発行されるGlobalニュースレターのレイアウトなど。

資格条件：

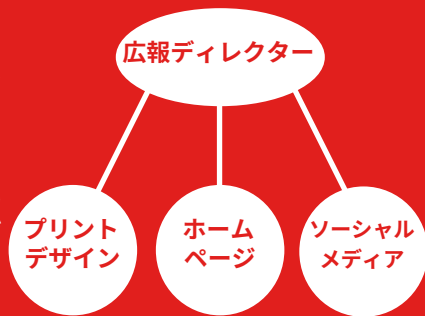
グラフィックデザインの訓練、仕事経験のある人。国内で高速インターネットの環境があれば、場所は問いません。

アドビのデザインソフトウェア (Photoshop,

Illustrator, InDesignなど) を自分で所持し、また使いこなすことができること



OMの広報ディレクターの指示に従い、またOM国際ブランディングガイドラインに沿ってのプリント製品のデザインができること。



参加者国籍 & 言語：日本人である必要はありませんが、日本語を読めることが必須となってきます。The position is not limited to Japanese, but being able to read/write Japanese language is crucial.

あなたの特殊な才能を主のためにつかってみませんか。どうぞOM事務局までご連絡ください！

胸踊るこの時代



スティーブン スミスドルフ
OM日本代表、妻の契子と3人の
子供達、モーゼ(18)、恵真(15)、
ヨハン(12)と共に宮城県在住

キリストに従う尊い方たちへ、

私たちは今、とても胸踊る時代に生きています！それは神様が世界の至る所で、これまでに耳にしたことのない形で働いておられるからです。これは特に世界でも福音がまだ伝えられていない人々の間で顕著に見られていることです。何千人という人々が日々イエス様を信じるようになり、これまで教会が全く存在しなかった場所に新しい教会が誕生しているのです。

今日、世界中には、「福音が伝えられていない民族」（福音派のクリスチャンの数が人口の2%以下という定義）が6,700民族もあります。そのうちの一つである日本民族のために、伝道に携わっている日本の教会と、宣教師達のパートナーシップを覚え、主の御名を崇めます！しかし、何千という福音の伝えられていない小さな町や村に住む人々は、イエスキリストの良い知らせを届けてくれる最初の宣教師を待っています。毎日世界では、70,000人以上の人々がイエス様を知らずに亡くなっています。ということは、今年だけでも約3,000万人の人々が救いのメッセージを聞くことなく人生を終えることとなります。*

このことは、私たちのほとんどが、すでに何百回も福音を聞いたことがあるという中で起こっています。私達が行かなければ、彼らはどうやってイエスにあるこの素晴らしい救いのメッセージを耳にすることができるのでしょうか？真理を求める彼らの叫びに誰が応えてくれるのでしょうか？

宣教団体としてOMは「福音が最も伝えられていない場所」で働くことを最優先としています。私たちのミッションステートメントが「私たちの願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです」とあるのもそのためです。OMでは多くのチームがすでに世界中の様々な未伝地域で活動しています。

いくつかの例を挙げると、あるチームは中東のモスリムの人々の間で働き、他のチームはアフリカの中央部に住むアニミストの人々、東ヨーロッパの難民に関わるチーム、東南アジアにあるメコン地域に住む仏教徒の人々と関わるチームなどです。

もし、まだ福音の届いていない人々の間で神様の成しておられる働きに加わりたいと願っておられるなら、どうぞ私達にご連絡ください。皆さんのお話を聞き、そして皆さんとどのように祈っていくべきか、またどのような経済的支援ができるかについて話し合い、情報を共有したいと思います。

又、福音の伝えられていない人々への宣教として、短期、又は長期での様々な機会についても是非お話ししたいです。今回のニュースレターでは、ロシアやコーカサス地域で行われるアウトリーチについても触れています。また来年7月、アフリカのザンビア国中心部にあるアニミズム信仰の村で、10日間の短期宣教を経験してみるのはいかがでしょうか？もしくはセルビア国で開かれている難民支援プログラムにボランティアとして参加してみは？

2020年にはアブハジア（コーカサス地方）で、危険にさらされている子供たちの為に夏のキャンプが行われます。そのお手伝いに行ってみるのはいかがですか？あなたの興味や情熱に合う様々なプログラムや機会を見つけられるよう、これからもOMとして活動していきます。

皆さんからのご連絡をお待ちしつつ。
スミスドルフ スティーブン
OM日本 代表

*統計参考：
<https://www.aboutmissions.org/statistics.html>

OMのミッションステートメント：
私たちの願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです

・OM (Operation Mobilisation) は、世界約110カ国で3200名が活動している世界宣教団体です。OMは世界における世界宣教のために、奉仕者の育成を行っています。特に最も福音が伝えられていない地域に重点を置き、イエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、それらが育成されていくことを目標としています。



OM日本・OM Japan

🌐 www.omjapan.org 📱 fb.me/omjapan 📧 info.jp@om.org

☎ +81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX) 📍 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394

📮 郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」

OM日本ニュース 第83号 2020年 冬

発行人：スティーブンスミスドルフ

編集&デザイン：近藤健二